

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アクティブハート長南Ⅱ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	満足度と安心感 【Q29, Q27】 「事業所の支援に満足していますか」「子どもは安心感を持って通所していますか」に対し、回答者全員(9名)が「はい」と回答を頂いております。今後より一層の支援の充実を図って参ります。	マンネリ化を防ぐプログラム運営 【Q10】 「活動プログラムが固定化されないよう工夫されている」に対し、ほぼ全員より肯定して頂きました。普段の練習においては、サッカーを基盤としつつ、飽きさせないように様々な練習メニューに取り組んでいきたいと思っております。	日頃の状況共有の「深度」 【Q15】 「日頃から子どもの状況を伝え合い、共通理解ができてきているか」について、「はい」が6名、「どちらともいえない」が3名です。連絡は取っているものの、保護者が知りたい「詳細な様子」や「発達の機微」まで共有しきれていない可能性がありますので、改善案を検討していきます。
2	個別支援計画の質と納得感 【Q7, Q13】 計画作成時の分析(Q7)と、それに基づいた説明(Q13)についても、全員(9名)が「はい」と回答を頂いております。サッカーでの集団活動を中心としつつ、個別の支援の充実を図っていききたいと思っております。	丁寧な導入と情報発信 【Q12, Q21】 利用開始時の説明(Q12)や、日頃のHP・SNS等での発信(Q21)が高評価をいただきました。特にSNS等での発信は、後述する「安全面の不安」を払拭するツールとして今後さらに重要になるかと考えております。	専門性への信頼の底上げ 【Q5】 「専門性のある支援」について、「どちらともいえない」が2名でした。支援内容の意図(なぜこの遊びが療育になるのか等)を、より専門的な言葉で補足説明するなど、支援内容を理解して頂けるように努めていきます。
3	職員の共感的な姿勢 【Q17, Q6】 「共感的な支援(Q17)」も全員が「はい」です。また、公表プログラムと実際の支援の一致(Q6)にて、9名から「はい」と回答を頂いております。誠実な運営姿勢を継続して続けていきます。	保護者との意思疎通への配慮 【Q20】 コミュニケーションの配慮についても高い評価を得ています。送迎時や、連絡帳、HUGなどの連絡ツールを用いて、今後も開けた運営を心がけていきます。	環境の構造化の明示 【Q3】 構造化やバリアフリーについて「どちらともいえない」「わからない」が計3名います。構造化に関しては、物理的な環境設定の意図(刺激の調整など)を、見学时や通信等で改めてお伝えしてご理解をいただきたいと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域・他機関との交流 【Q11】 「はい」が3名のみと最も低く、「わからない(3名)」「どちらともいえない(2名)」「いいえ(1名)」と回答が分散しています。コロナ禍等の影響も考えられますが、地域社会との接点が保護者に見えていない状況です。	安全管理の「見える化」不足 実際には避難訓練や安全対策を行っていても、それが保護者に「情報」として届いていませんでした。結果として「本当に大丈夫かな？」という潜在的な不安に繋がってしまいますので、情報の発信を強化していきたいと思っております。	避難訓練・安全対策の積極的な発信 【対Q23, Q24, Q25】 避難訓練を行ったら、写真付きでSNSやブログにアップする、または連絡帳に「今日は地震の避難訓練を立派に行いました」と記載していきたいと思っております。年に1回は「防災・防犯マニュアル」等を作成し、周知していきたいと思っております。
2	非常時の訓練とマニュアルの周知 【Q23, Q24】 避難訓練やマニュアルについて、「はい」が4名のみです。「わからない」が最多(計5件)であり、「いいえ」も1件あります。避難訓練実地日の告知と報告をしっかりと行っていきます。	社会資源との連携不足 事業所の中だけで完結してしまい、地域の児童館や他施設、近隣住民との関わりが希薄になっています。特に地域社会との関わりに関しては、集学校という立地上、長南町と関わりやすいと思っておりますので、方法を模索していきたいと思っております。	地域交流の機会検討と現状説明 【対Q11】 地域の公園清掃への参加、買い物体験など、スモールステップでの地域活動を取り入れていきたいと思っております。
3	安全確保計画と事故対応の説明 【Q25, Q26】 安全計画や事故時の連絡について、「はい」は6名に留まり、「わからない」が各2名います。何かあった時の対応について、不安や不明点を残している可能性がありますので、安全確保計画について周知を行っていききたいと思っております。	保護者との「共通理解」の深化 満足度は高いものの、Q15(共通理解)での「どちらともいえない」と回答をいただきましたので、より保護者への情報交換の場をつくっていききたいと思っております。	連絡帳や送迎時会話の質的向上 【対Q15】 「元気でした」だけでなく、「今日は〇〇の活動で、こんな成長が見られました」という具体的なエピソードを増やすことで、保護者との共通理解を増やしていきたいと思っております。